

「空飛ぶ円盤」(UFO) をキーワードとする COSMIC LINE— 三つのメモリアルコンサート 2015

●2月8日(日) 午後2時 宮下富実夫のヒーリング・ミュージック (テープ、レコード音源)

●2月22日(日) 午後2時 時代を予見する井村宏次の音宇宙 (テープ、CD音源、ほか)

●3月21日(土・祝) 午後2時 佐藤良和先生桜花忌おひがみコンサート (生演奏)

会場：まつむし音楽堂 (大阪・アベノ) 電話 06-6624-0559 入場無料

思い出すままに・・・1974年11月、奈良市中町(富雄)に住む高校の後輩で音楽仲間の武良光さん(故人)と合奏練習のあと、生駒山麓で三機編成のオレンジ色の発光体を目撃。直後に、無音でゆっくりと反時計まわりに回転しながら飛行する「空飛ぶ円盤」(UFO)が頭上に出現した。その夜、強烈な放射光に包まれて目覚め、窓の外にマラソンのかけ声のように規則的で、機械的な音が近づいてくるのを聞いた。怖くて窓を開けずにいると、その音はしだいに遠ざかった。1977年夏、高校時代の恩師、佐藤良和先生が主宰する「読人不知(よむひとしらず)」の会で十津川・熊野方面へ旅行。途中の山村にて小用中、アメカワベンザイテンなる看板を幻視。1979年夏、大峰山の山頂(山上ヶ嶽)に滞空する「空飛ぶ円盤」(UFO)を撮影。1980年9月、武良さんの自宅で合奏練習後、「円盤」撮影のため外出。数時間待っても現れずギブアップ。そのとき正面の山が発光、無音で空中を滑るようにUFOが接近、日没後のため必死でカメラを保持して低速シャッターを切り続け、至近距離での撮影に成功した。1982年夏、南日裏(天川村)のオートキャンプ場に出かけ偶然に天河大辨財天女社を遠望。同社宝物殿にて三角形の「環鈴」を拝観。1983年、同社夏祭にてYMOの細野晴臣、元「ファー・イースト・ファミリー・バンド」の宮下富実夫らが奉納演奏。宿泊先で弥山上空の「飛行船」(UFO)をビデオ撮影した宮下氏と邂逅。細川信義氏(故人)の公認会計士事務所にて「サイ・テクノロジー」(工作舎)の著者、井村宏次氏と邂逅。1986年、「ニュートラルポイントの秘密～日本の近未来戦略～」(アニマ2001)上梓。1988年、「スーパーマインドセッション88～『気』の交流回路を求めて」(東京サンケイリビング新聞社)開催。社団法人生命科学振興会による研究助成論文「生命観の確立に果たす音と意識への影響について～言霊の解明とセラピーへの応用」(井村宏次氏との共同研究)を発表。1989年、KTV「エンドレスナイト」UFO特集番組に出演。ライアル・ワトソン博士を招き「ライフサイエンス国際シンポジウム」開催。1992年、「コズミックファンタジーフェア」(阪急ファイブ)。「マンスリー近畿」(近畿通産局)に「脱日常の象徴としての空飛ぶ円盤」が掲載。1995年、「コミュニケーション宇宙と人間～きみはETに出遭えるか～神秘のUFO写真展」(WTCビルディング・産経新聞社共催)入場者5万5千人、図録として「未知の彼方へ～神秘のUFO写真集」(浪速社)を出版。米国のトップダウザー、ビル・コックス氏(故人)を招き「ビル・コックス スーパーサイエンスシンポジウム」を開催。同時に淡路島Y学園にてダウジング調査による深井戸掘削プロジェクトを進行、成功に導く。1997年、福知山市の山間、K庵食品工場でも深井戸掘削に成功。「直観と環境テクノロジー」(ビル・コックスほか共著。浪速社)を発行。2002年、丹後一の宮、籠(この)神社における奉納演奏で宮下富実夫氏と再会。2003年2月6日同氏逝去。2012年3月21日、学校演劇・生涯教育の先駆者、佐藤良和氏逝去。2014年2月23日、「気」の医学、環境テクノロジーの先駆者で阪神大震災を直前に予知、警鐘を放ったことで知られる井村宏次氏逝去。「空飛ぶ円盤」(UFO)をキーワードとしてつながった三人の先駆者たちのご冥福をお祈りし、その功績の数々に思いを馳せるため、メモリアルコンサートをひらきます。どうぞご参加を。(和田高幸)